

市政モニタ一提言

I 町内会・自治会について

提言 1 町内会の存在意義の再定義を行う

【提言内容】

- ・水戸市が、「町内会がなくなったら、市民にとって不便になること」を洗い出す。
- ・水戸市もしくは住みよいまちづくり推進協議会が、上記内容をWEBサイトに掲載する。
- ・水戸市が、①防犯、②防災、③道路等環境清掃、④祭行事、⑤広報のうち、行政がやらないこと（自助、共助（市が補助するものをふくむ））と、行政やること（公助）の分担を整理し、纏める。
- ・水戸市が、上記情報をWEBサイトに公開する。
- ・水戸市が提言3の町内会再編に先立ち、災害時に自らが利用する指定避難所は具体的にどこなのか、住所を入れると明示される仕組みをWEBサイトに公開する。

【背景・目的】

- ・あるべき姿は、住民に町内会の存在意義が浸透すること。
- ・町内会非加入者は、防犯灯、広報紙配布などを、町内会が担っていることをあまり知らない。また、知っていても、町内会がなければ誰か（行政）がやってくれると考えている。
- ・町内会の活動について何のためにやっているかわかりにくく、その存在自体が否定されかねない。
- ・行政側から存在意義を整理することで、住民は町内会の存在を前向きに捉えられるようできる。
- ・災害対応の拠点となる指定避難所について、自らが利用することになるのはどこなのか日頃から知る機会があまりない。そのため、WEBサイト上で簡単に調べられる仕組みがあれば役立つ。

【参考情報】

町内会の運営について役員に尋ねる調査で、「いま取り組んでいる課題」と「これから取り組まなければならない課題」とがずれていることを示す結果はよく目にするところである。主な傾向は、現在取り組んでいる課題では「環境美化」「交通安全」「子どもの見守り」などが上位にあるのに、これから取り組まなければならない課題としては、「高齢者福祉」や「災害対策」

が上位に来ることである。(中略)その意味で、町内会の運営の刷新が求められている。それは、組織としての管理(マネジメント)の見直しと強化の問題である。

—中田 実(2017)『地域分権時代の町内会・自治会』自治体研究社—

提言2 町内会の情報発信を、回覧板中心から変革する

【提言内容】

- ・水戸市が、非会員もふくめた市全域の町内会 WEB 情報発信プラットフォームを作成する。
- ※1, 300 の全町内会が対応するかどうかは、町内会次第。
- ・水戸市が、町内会単位で導入可能なグループウェア導入を支援する。
- ・水戸市が、災害対応を学ぶイベントの開催を支援する。具体的には「ソーシャルディスタンスを確保した避難所暮らし体験会」など。指定避難所がカバーするエリアで、複数の町内会が連携して開催し、その場で町内会の勧誘を実施する。
- ・水戸市が、課題を抱える町内会員と、その解決に貢献できる地域住民をマッチングするプラットフォームを整備する。

【背景・目的】

- ・あるべき姿は、町内会のイベントや防災訓練等の情報に接することができること。
- ・町内会の随時情報について、町内会非会員は得る手段がなく、会員も回覧板から得ることになる。しかし、回覧板は情報発信者・受信者ともに負担が大きい。
- ・町内会会員以外も町内会イベント情報に接することができることで、会員負担を増やさずに各イベントの効果を最大化できる。
- ・町内会会員同士の情報交換にインターネット(グループウェア)を利用することで、町内会活動の活性化と、情報の蓄積を実現できる。
- ・オフラインイベントでの情報発信も同時に行うことで、IT 機器やインターネットに不慣れな人々にもアプローチできる。
- ・人材の確保に苦慮する町内会が、非会員である有識者に頼ることで課題解決を目指すことができる。一方で有識者にとっても、プロボノ活動を行うことで地域社会に貢献することができる。

【参考情報】

サイボウズ チーム応援ライセンス <https://npo.cybozu.co.jp/team/>
…経費試算 9,900 円+税(900 ユーザまで。1 町内会規模は十分おさまる)

提言3 町内会幹部の負担を減らす、メリットを増やす

【提言内容】

- ・水戸市が、町内会の再編を支援する(町内会数を減らし、会長幹部の実数を減らす)
- ・共助の必要性が最も強く認識されるのは災害時なので、防災や災害対応を活動の主軸とし、指定避難所の配置に合わせて町内会を再編することを奨励する。
- ・市民センター(市職員)が町内会業務を直接支援する。
- ・役員や町内会労働を受け持った人に、相応の報酬を出す。

【背景・目的】

- ・あるべき姿は、意欲のある人が会長や幹部になりやすくすること。
- ・役員の業務内容、町内会活動の労働内容、および町内会会計のそれぞれの透明性を確保したうえで、役職者への報酬や労働への対価を支払うことで、町内会幹部になるメリットを生むことができる。
- ・防災や災害対応を主軸とすることで、役員には経済的なメリットだけでなく、地域を支えているという使命感を持ってもらうことができる。
- ・町内会において、会長は数年ごとに代わることを推奨されているが、町内会において幹部の成り手が不足しているという話を伺い、損な役回りのようになっている。

提言4 町内会会員の負担を減らす、メリットを増やす

【提言内容】

- ・水戸市が、町内会の会費を公開する。
- ・水戸市と町内会が、共同で市民の町内会活動への参加方法を広げる仕組みを構築する。(例えば
 - ① 一同そろっての活動ではなく、各々の隙間時間に活動できる仕組みを作る。
 - ② 正会員(従来通りの町内会会員)・準会員(仕事・育児などが理由で積極的に活動に参加できないが、会費だけは払う。)を設ける など)※まずはモデルケースとして、1～2個の町内会と共同で行い、適宜調整を行う。)
- ・水戸市が、町内会活動回数の上限を規定。(月にx時間まで)。

【背景・目的】

- ・あるべき姿は、その地区に住む皆がなんらかの形で町内会へ参加すること。
- ・住民によっては、共働きや高齢化などで労働力が提供できない場合がある。また、参加できる人でも、そもそもどれだけ拘束されるかわからず不安を感じる。そこで

今までのような一定の義務を一律に町内会員に課すのではなく、現代のニーズにあった多様な参加方法を模索する必要があると考える。

- ・町内会自体の価値を感じるが、イベント等の手伝いができない層を拾い上げることが目的。

提言 5 町内会の運営を透明化する

【提言内容】

- ・水戸市が、自宅等から、住所やマンション名から所属する町内会がどこなのかワンストップでわかるプラットフォームを構築する。
- ・上記にあたり、住所やマンション名等から町内会が特定できない場合には、水戸市が町内会の再編（区域の明確化）を主導する。
- ・水戸市が、すべての町内会について、名称、区域、予算／決算、活動計画／活動実績を把握する。
- ・水戸市が、上記情報を WEB サイトに公開する。
- ・水戸市が、各町内会に対して民間企業や NPO 法人に匹敵する透明性の高い運営の実現を奨励する。具体的には、不動産を保有する町内会の法人格取得や、クラウド会計ソフト等を用いた簡便な会計帳簿の作成・公開のサポートなど。

【背景・目的】

- ・あるべき姿は、住民が自分の所属する町内会の情報に簡単にアクセスできること。
- ・市民が町内会入会を検討したとき、所属する町内会情報を得ようとしても、行政に請求しなければ得ることができない。また、活動内容や金銭面について、町内会＝ブラックボックスの怪しい組織という印象が持たれかねない。
- ・自分の所属する町内会の情報が、特に非会員層にいつでも知られる状態であることで、町内会への参加意欲を高めることができる。

【参考情報】

宇都宮まちかど情報マップ

http://www.machi-info.jp/machikado/utsunomiya_city/jitikaikuiki.html

札幌市 マチトモ <http://www3.city.sapporo.jp/shimin/shinko/>

クラウド会計ソフト freee 「NPO 法人の基礎知識」

https://www.freee.co.jp/kb/kb-npo/merit_and_being_careful/

提言 6 町内会の行事活動を、誰でも参加可能にする

【提言内容】

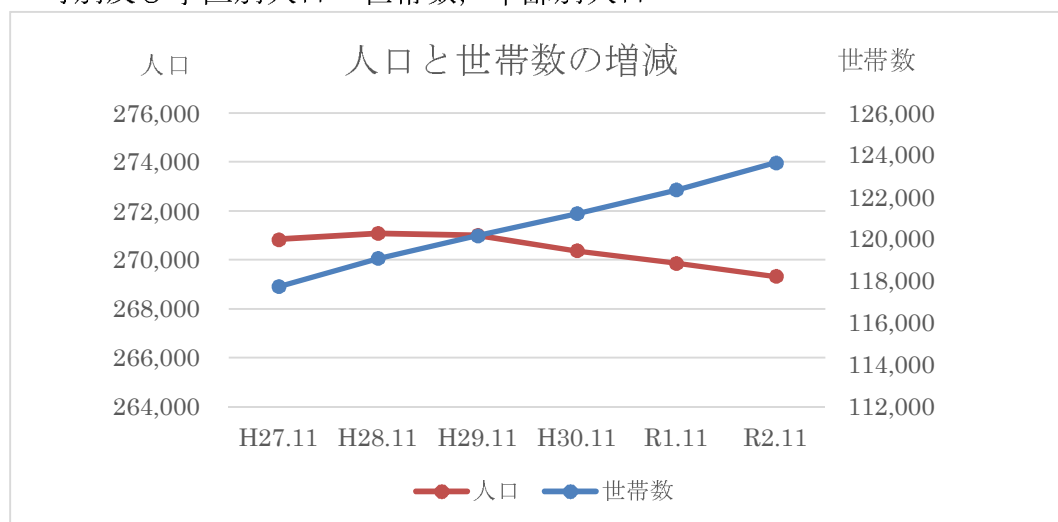
- ・水戸市が、町内会の子育て世代をふくむ家族参加を想定した、餅つき・ハロウィン等季節行事に対して、補助金を拠出する。
- ・賃貸住宅に居住する人にも勧誘や連絡が行き渡るよう、大家や管理会社に協力を求める。

【背景・目的】

- ・あるべき姿は、会員以外も行事に参加できる雰囲気をつくり町内会活動をアピールできる状態。
- ・町内会の主催する行事活動（お祭り、その他各種〇〇会）は、閉鎖的で寄り合い的な印象を受ける。
- ・現状でも、運動会、防犯灯、広報紙配布等活動に応じて補助金・委託料は支払われており、既存の仕組みが応用できるという背景もある。
- ・町内会は自宅を所有し、そこに複数人で暮らす世帯だけの集まりになってしまっている。単身世帯や賃貸居住者が増えている中、それらの人々を抜きにしては地域の維持・発展は見込めない。

【参考情報】

町別及び学区別人口・世帯数，年齢別人口



<https://www.city.mito.lg.jp/001544/001567/001815/p008928.html> より作成。

人口が横ばい・微減傾向なのに対して世帯数は漸増傾向。

Ⅱ 観光について

「マイクロツーリズム関連」

提言7 ライトアウトドア（デイキャンプ・バーベキュー）場の設置について

【提言内容】

- ・デイキャンプやバーベキュー等のライトアウトドアを気軽に楽しめる場を提供することで、市民のレジャー環境を充実させる。
- ・市内公園にライトアウトドアの場を設定することで、公園の利用を促進する。
- ・近隣市町村からの来場を誘致し、市内での消費および観光を促す。
- ・注目を集める場づくりやイベントの開催を通してメディア発信を増やし、市の魅力向上につなげる。

【背景・目的】

with コロナといわれる環境下では、マイクロツーリズムが注目を浴びている。心身のリフレッシュを目的とし、自然に触れることや美味しいものを食べるということを通して非日常を求めるため、デイキャンプやバーベキューなどのライトアウトドアは、家族単位で楽しむことができる最も手軽なマイクロツーリズムである。ところが、水戸市内では手軽にライトアウトドアを楽しめるところがなく、現状では県北の山間部、海沿い、筑波山周辺等まで足を伸ばす必要がある。

近年のアウトドア市場規模は5,000億円程度で年々増加傾向にあり、うち50%はライトアウトドアが占めている。アウトドアは、若年層からファミリー層、シニア層まで幅広く支持を得ているため裾野が広く、特にライトアウトドアはゆとり世代に支持されているという研究結果もある（矢野経済研究所調べ）。若年層に向けた水戸市の魅力発信の一策としても有効なのではないだろうか。

【具体的な実施方法（案）】

- ・偕楽園公園の一部（桜川駐車場周辺、せせらぎ広場、さくら広場）を活用。
- ・投資コストを抑えるため各種器具は全て各自持ち込みとし、市側はスペースの管理のみを行う。
- ・場の利用にあたっては、事前のオンライン予約を必須とする。
- ・バーベキュー具材は近隣スーパーと提携して地元産野菜・肉を中心とするパッケージを販売（予約制にすることで廃棄を防ぐ）。

提言 8 市営・民営農業体験の充実

【提言内容】

- ・ふるさと農場において、一般市民を対象に、季節に応じて水戸市で生産量の多い白菜やねぎといった野菜・果物を収穫できるようにし、他農産物の観察手入れと合わせて、年間収穫体験ができるようにする。
- ・農業従事者等が、農地維持や収益拡大のため観光農園化する事業に対して、市農業・商工部門が支援する。

【背景・目的】

- ・あるべき姿は、水戸市民が、水戸の農産物に身近な関心を持ち、地産地消できる状態。
- ・昨今、マイクロツーリズム、アウトドア観光の需要が生まれている。住民のアウトドア需要に応えつつ、市の諸課題解決（本提案では農業生産高(106億円/年)対策)につながる観光施策が有効と考えられる。
- ・水戸市営のふるさと農場は主に常時利用者（農園利用者）向けの市民農場であるため、一般市民は、年2回の芋ほり以外に季節に応じた農業体験は得難い。また芋ほりには、水戸らしさが生かされているとは言い難い。
- ・市内耕作放棄地は2015年現在1,334ha（2005年913ha）あり、活用できる農地は多い。また、観光農園（市民農園を除く）は県央地域に殆ど無く、観光農園としての競合は少ないと考えられる。
- ・観光農園化には収益拡大期待がある一方、トイレや駐車場といった設備や広告宣伝の参入ハードルがある。

【参考情報】いばらきのグリーン・ツーリズム - 都心から近い茨城県で、レッツ田舎体験！

<<https://www.green-tourism.pref.ibaraki.jp/>>

提言 9 納豆消費量の向上

【提言内容】

(1) 納豆の食べ比べ・納豆料理のイベントの開催

コロナ禍の終息後、全国または茨城各地の納豆の食べ比べや、納豆料理が食べられるイベントを開催する。梅まつり期間中におこなわれている「梅酒まつり」のように、全国（または茨城）各地の納豆の食べ比べができるイベントをおこなう。参加者は自由に食べ比べをおこなって、「ほしいも品評会」のように、気に入った納豆に投票できる。また、このイベントでは、納豆を用いた郷土料理、オリジナル料理

など、納豆を様々な食べ方で提供する飲食店を誘致する。

これにより、水戸市民は普段はあまり食べない納豆料理に触れることができ、納豆を目的とする観光客の来訪も見込める。

(2) 水戸商工会議所の納豆料理レシピをスーパーマーケットに掲出

水戸商工会議所の『納豆を毎日食べて挑む力を応援するプロジェクト』において、「納豆嫌いの人を納豆好きに変えられるレシピ」を全国各地から広く募集し、それらの納豆料理レシピ（リーフレットまたはカード）をスーパーマーケットの納豆売り場やサッカー台などに掲出する。

これにより、普段の生活で納豆料理のレシピに触れる機会を増やし、納豆の消費を喚起する。

(3) 小中学校において納豆・納豆料理に親しむ機会を提供

公立小中学校の給食および授業（家庭科または総合的な学習の時間）において、納豆や納豆料理に触れられる機会を増やす。

現状、学校給食では1週間に1度程度、MITOごはんが提供されているが、納豆は月に1度、納豆料理ではなく納豆の状態を提供されている。そこで、納豆料理に特化したレシピを市民から広く募り、MITOごはんの枠で納豆料理を提供する。また、授業（家庭科または総合的な学習の時間）において、わらつと納豆について学習する機会や、納豆に精通した料理人が監修した納豆料理を調理する機会などを設ける。

これにより、水戸市内の児童生徒が納豆や納豆料理に親しむ機会を確保することで納豆嫌いを減らし、納豆の消費を喚起する。

(4) 市民から納豆料理や地場産物のレシピや写真を募集し、市ホームページに掲出

市民（水戸市民に限らない）から随時、納豆や水戸市・茨城県産の農産物などを用いたレシピや写真を募集する。そして、日替わりで水戸市ホームページの目立つ場所に掲出したり、学校給食で献立として採用したりする。

これにより、納豆の消費量向上のみならず、地産地消や健康的な食事などへの意識を高める食育効果も期待できる。また、レシピ情報を日替わりでホームページに掲出することにより、市民が頻繁にホームページを閲覧するようになるため、付随して市民が水戸市からの広報情報を目にする機会も増やせる。

(5) 「ヤマザキ春のパンまつり」の納豆版の企画を県内の納豆業者が連携して実施

茨城県と連携し、茨城県内の納豆業者で共通するシールを納豆の商品パッケージに貼って販売する。消費者はシールを集め、茨城県ならではの実用的な景品（たとえば水戸市の七面焼の茶碗、笠間市の笠間焼など）と交換する。「ヤマザキ春のパン

まつり」の納豆バージョンを複数の会社でおこなうイメージである。

シールのポイントを集めて応募すれば必ず景品と交換できるようにし、茨城県全体を巻き込んで納豆の消費を喚起する。

(6) 水戸市優良観光土産品を詰め合わせセットとして、インターネットで販売

水戸市優良観光土産品（納豆を含む）を詰め合わせセットとして、インターネットで販売する。

たとえば、「雪あかり」「四代目からし」「米麺 穂々の空」の納豆料理セット、「吉原殿中」「レアチーズ・タルト」「サザカップオン徳川將軍珈琲」のお茶菓子セット、「水戸 鯉渕アーリー・スチューベン」「ゴータ・チーズ」「サントモール・チーズ」「青パイアの甘なっとう」のワインとおつまみセット、「水戸の梅」「のし梅」「梅ようかん」「水戸茶」の和菓子セットなど。

これにより、納豆の消費量向上のみならず、観光品の知名度や消費量の向上も期待できる。

【背景・目的】

「水戸といえば、納豆」という観光客からのイメージがある割に、水戸市民はそれほど納豆を食べておらず、水戸市における納豆の消費量は伸び悩んでいる。水戸市はこれについて問題意識を持っており、「納豆食べ方コンテスト」（水戸商工会議所）、「納豆のまち水戸攻略ガイド」（水戸市）など、納豆購入額日本一奪還のため、様々な取り組みをおこなっている。また、わらつと納豆の購買と納豆消費量増加を両立させる取り組みについて報じた2020年11月9日の毎日新聞の記事によれば、「東北にはアレンジ料理が豊富」「水戸は食べ方に幅がないので消費拡大につながっていない」（水戸市の担当者の話）とのことである。

そこで、水戸市民の納豆への興味を増大させて納豆の消費量を増加させることにより、納豆購入額日本一の奪還を目指し、また、水戸市に馴染みのある人を中心に、水戸の魅力や納豆の多様性を強く意識できるようにする。これらのことにより、観光客がより強く「水戸は納豆の聖地だ」と認識し、納豆を目的として水戸を訪れる観光客が増加することが見込まれる。

【その他】

・(2)–(5)は並行しておこない、(5)の期間中に(1)を開催することが望ましい。

・必要経費：

(1) イベント開催にかかる諸費用、広報費など

(2) 納豆料理のリーフレット（あるいはカード）の製作費、送料など

(3) 納豆料理レシピの制作にかかる費用

(5) シールや応募はがきの製作費、景品の製作費、広報費、送料など

(6)通販サイトの運営費など

・先行事例：

(1) 全国梅酒まつり in 水戸（水戸観光コンベンション協会。全国の梅酒約 140 種類の飲み比べイベント）、ほしいも品評会（ひたちなか市・東海村・那珂市。市民参加型の品評会）

(4) 茨城県エコレシピコンテスト（茨城県）、我が家のおすすめ料理レシピ（水戸市学校給食共同調理場。小中学校の児童生徒及び保護者向け）、前橋市ホームページの「えがお時計」（市民による投稿コーナー）

(5) ヤマザキ春のパンまつり

(6)水戸市学生エール便みとちゃん BOX（水戸市の農産品の詰め合わせ）

提言 10 水戸郷土かるたの活用

【提言内容】

(1) 「水戸郷土かるた」の利用用途の拡充

「水戸郷土かるた」を教育目的以外で利用する際のルールとして、『水戸郷土かるた』利用に関する取扱要領」を規定し、教育目的以外で「水戸郷土かるた」を利用したい場合、申請書を水戸市に提出して許諾を得ることとする。これにより、「水戸郷土かるた」を教育目的だけでなく、水戸市民の郷土に対する愛着を深める手段や、水戸市の PR の手段としても広く活用できるようになる（たとえば水戸郷土かるたを用いた観光イベント（かるた大会、スタンプラリー、バスツアーなど）の開催、スマホアプリや動画の制作など）。

参考までに、群馬県の郷土かるた「上毛かるた」には、利用申請をおこなう仕組みがある。許諾の基準として「子どもたちをはじめ、群馬県民の郷土に対する愛着を深め、誇りを育むもの」「群馬県のイメージアップや PR に寄与するもの」が挙げられており、「利用を認めない場合」や「禁止事項」も規定されている。

(2) 小学生向けイベント「水戸郷土かるた大会」を一般市民にも拡充

現在は小学生向けにおこなわれている「水戸郷土かるた大会」を拡充し、「小学生部門」のほか、年齢や居住地域にかかわらず誰でも参加できる「フリー部門」を設ける。これにより、水戸市に馴染みのある人が、水戸郷土かるたを通して、水戸市の歴史・文化財・人物・観光名所などに親しみ、興味関心を深めることができる。

小学生部門は 3 人 1 組のチームでの参加とし、従来通りに地区単位で予選をおこない、決勝戦は別日におこなう（この際、子ども会に加入していない小学生でも参加可能とする）。フリー部門は 1 組あたり 3 人までのチームあるいは個人での参加とし、定員を定めて参加者を事前募集し、別日に予選はおこなわず、1 日限りのト

ーナメント形式とする。2つの部門は別日に実施する（フリー部門に親子でも参加できるようにするため）。

大会では、参加賞のほか、優勝者への豪華賞品（水戸市内で使える金券等）を用意して、参加意欲を高める。

(3) 小学生の親子向けイベント「水戸郷土かるためぐり」を一般市民にも拡充

現在は小学生の親子向けに行われている夏休みのバスツアー「水戸郷土かるためぐり」を拡充し、一般市民も参加できるようにする。

(4) 水戸郷土かるたスタンプラリーの実施

通年で取り組める、「水戸郷土かるたスタンプラリー」を実施する。日帰り観光客向けの手軽なものからマニアックなものまで、複数のテーマを設ける。たとえば「春の名所：偕楽園、六地藏寺」「水戸学の道：弘道館、東武館、水戸城二の丸展示館など」「芸術：近代美術館（横山大観、中村彝など）、水戸美術館（大根むき花、ささらばやしなど）、ザ・ヒロサワシティ会館（千波湖）」「徳川家：常磐神社（徳川光圀、徳川斉昭）、歴史館」「史跡：大渡里、十万原、愛宕山、くれふしの里、大串貝塚」「すべての読み札」など。スタンプラリーを巡り終わると、テーマに合った景品と交換できるようにする。

かるたの読み札によっては、詠まれている場所だけでなく、近隣に立地する飲食店等の店舗や所縁のある施設などにもカードやスタンプを設置する。その際、連携施設であることをスタンプラリー参加者が分かりやすくするため、のぼり旗やポスターを掲出する。

(5) 水戸郷土かるたに所縁のある場所にみとちゃんが赴く短編動画の定期投稿

水戸郷土かるたに所縁のある場所にみとちゃんが赴く動画「水戸郷土かるたの地をみとちゃんと巡る」（仮称）を制作する。1編5分程度の短編動画をシリーズものとして制作し、YouTubeの水戸市公式チャンネルに定期的にアップロードする。この動画により、上記(2)-(4)の宣伝、水戸市の歴史・文化財・人物・観光名所などの紹介を同時におこなう。

動画のコンセプトは、みとちゃんがスタンプラリーの「すべての読み札」をコンプリートすることで水戸市を知悉し、水戸郷土かるた大会で優勝することを目的として、現地へ赴く……というもの。動画の冒頭で水戸郷土かるたの該当する絵札・読み札を紹介し、現地で専門家の話を聞くなどしたあと、スタンプを押す（一度に複数巡るのも可）。

【背景・目的】

水戸を訪れた観光客は、「偕楽園」「千波湖」「納豆」「黄門まつり」などの知名度

の高いものには触れるが、「納豆なんでも展示館」「つつじまつり」など知名度の低いものにはあまり触れようとしない。また、旅行会社へのアンケート調査からは、観光資源として商品力のあるものは必ずしも知名度の高いものばかりではなく、観光情報のアクセスのしやすさが課題として挙げられている（いずれも、『水戸市観光基本計画（第3次）』p.10からのアンケート調査結果参照）。

また、水戸市では小学生向けに「水戸郷土かるた大会」、中学生向けに「いばらきっこ検定」が実施されており、小中学生が水戸市の歴史・文化財・人物・観光名所などについて学べる機会は確保されているといえる。しかし、高校生以上の学生や、水戸市に移住してきた成人に関していえば、水戸市の歴史・文化財・人物・観光名所などに触れられる機会が少なく、水戸の魅力が十分に理解されているとはいいがたい現状がある。地元の人でもよく知らないことは、観光客も知ろうとはしないであろう。

そこで、水戸市の歴史・文化財・人物・観光名所などを網羅した「水戸郷土かるた」を活用し、誰もが水戸の魅力を楽しく学べるコンテンツ作りを提案する。「水戸郷土かるた大会」の拡充によって、水戸市に馴染みのある市民（とりわけ、高校生以上の学生、水戸市に移住してきた成人）が水戸を知る機会を得られる。また、「水戸郷土かるたスタンプラリー」は既存の観光資源を生かした新たなコンテンツであると同時に、水戸市の魅力についての情報発信をおこなうこともできる。

【その他】

- ・ (2)-(5)を円滑におこなうため、(1)でルール作りをおこなう。
- ・ (4), (5)は並行しておこなうことが望ましい。
- ・ (5)の動画投稿数がある程度増えた段階で(2)をおこなうことが望ましい（大会の知名度が上がることにより、参加者が増えるため）。
- ・ 必要経費：
 - (2) 賞品の代金、人件費、広報費など
 - (3) バスの運行にかかる費用、人件費、広報費など
 - (4) カード、スタンプ、のぼり旗、ポスターの製作費、景品作成費、広報費など
 - (5) 動画作成費、人件費など
- ・ 先行事例：
 - (1) 「上毛かるた」の利用申請について
(<https://www.pref.gunma.jp/03/c4200162.html>)
 - (2) 水戸郷土かるた大会
 - (3) 水戸郷土かるためぐり
 - (4) 上毛かるたスタンプラリー（群馬県の郷土かるたを活用したスマホアプリ）

提言 11 水戸教学の活用

【提言内容】

(1) 水戸教学ワークショップの開催

水戸市の歴史・人物・文化などについて広く学べる、水戸教学ワークショップを開催する。

ワークショップは幅広い年代が参加できるように、休日昼間に開催する。参加者の年齢や居住地は制限せず、定員を設けて参加者を事前募集する。単発のイベントではなく、複数回開催して、開催日ごとに異なるテーマのワークショップにする。

ワークショップでは、水戸まごころタイムの単元「水戸教学」9年分のカリキュラム（水戸城と水戸藩、千波湖の自然と歴史、那珂川の昔と今、弘道館と偕楽園、徳川光圀と「大日本史」、水戸の名産品、水戸のスポーツなど）の中から選りすぐりのものを一般市民向けにまとめ、体験型の講義をおこなう。たとえば、「水戸の名産品」では水戸優良観光土産品に指定されている食品を実食する、「千波湖の自然と歴史」では千波湖に実際に赴いて動植物を観察する、など。

また、ワークショップでは、水戸市の教員向け参考資料『水戸教学』や小中学生の社会科副読本『みと』『水戸』など、小中学校の水戸教学の授業で用いられている教材の内容を基にした、一般市民向けの水戸教学の冊子を配布する。

(2) 水戸教学に関する動画を作成

(1)の様子を録画、または水戸教学に関する動画を作成し、水戸市公式チャンネルで配信する。

(3) いきいき出前講座で水戸教学の講座を開講

いきいき出前講座で水戸教学の講座を設け、水戸市職員が講座をおこなう。講座の内容は「市の自然」「水戸藩の歴史」「観光名所とその歴史」「名産品」など複数のテーマから選べることとし、市民のリクエストによって講座内容および担当者を変える。

(4) 「わたしたちの水戸八景」のコンテスト化

『水戸教学』p. 60に記載の「わたしたちの水戸八景」をコンテストにする。これにより、水戸市に馴染みのある人が、水戸市の魅力を再発見し、水戸市への愛着を深めることができる。

コンテストは小学生部門と、年齢や居住地を制限しない「フリー部門」とに分ける。小学生部門では各学校の優秀作品を募り、フリー部門では水戸市に馴染みのある人から広く募集する。そして、たとえば「市長賞」「教育長賞」「優秀賞」「佳作」などの賞を設けて、それぞれ豪華賞品（水戸市内で使える金券等）を用意すること

で参加意欲を喚起する。

【背景・目的】

「水戸郷土かるた」に関する提言でも述べたように、水戸市では、小中学生向けに水戸市を知る機会が提供されている。「水戸郷土かるた」や「いばらきっ子検定」の実施のほか、公立小中学校では、総合的な学習の時間に「水戸教学」の時間が設けられており、小中学生が水戸市の歴史・文化財・人物・観光名所などについて学べる機会は確保されているといえる。しかし、高校生以上の学生や、水戸市に移住してきた成人に関していえば、水戸市の歴史・文化財・人物・観光名所などに触れられる機会が少なく、水戸の魅力が十分に理解されているとはいいがたい現状がある。観光客のさらなる来訪のためにも、地元の人が地元を知っていることは重要である。

そこで、水戸市の歴史・文化財・人物・観光名所などを知ることのできる「水戸教学」を活用し、誰もが水戸の魅力を楽しく学べるコンテンツ作りを提案する。

【その他】

・必要経費：

- (1) 人件費、冊子の製作費、広報費など
- (2) 動画作成費など
- (4) 賞品代、広報費など

・先行事例：

「水戸まごころタイム」における「水戸教学」の授業

「空き家利活用」

提言 12 空き家総合相談窓口の設置

【提言内容】

- ・水戸市役所本庁舎内に空き家の相談窓口を設置。
- ・空き家の実態調査（データ化）。
- ・相続による空き家取得に係る利活用相談。（税金，補助金等）
- ・賃貸契約に基づく空き家の利活用相談。（税金，補助金等）
- ・空き家の所有者と空き家を活用したい人とのマッチング相談。
- ・その他，上記に係る相談及び売買，管理，解体等に係る相談等

【その他】

- ・費用：案内チラシ作成 等
- ・参考事例：愛知県江南市 空き家総合相談窓口

提言 13 古民家（空き家）再生事業補助金の導入

【提言内容】

・古民家（空き家）を新たに取得するなどし、テレワーク・ワーケーションといった働き方改革に資するものや、地域住民（コミュニティ）のいこいの場など、地域社会の発展に寄与すると認められる事業において、家屋等の改築改装に伴う費用の一部（上限〇〇万円）を充当するための補助金。

・地域社会の発展のために、

- ①地域住民等が気軽に利用できる環境づくりに配慮する事。
- ②Free Wi-Fi の環境が整っていること。
- ③古民家（空き家）の外観を活かすなど、景観に配慮している事。
- ④古民家（空き家）の維持管理について通年で責任をもって行える事
- ⑤バリアフリー、ジェンダーフリーに配慮している事

等の条件を満たす必要あり。

【その他】

- ・費用：案内チラシ作成 補助金のための予算 等
- ・参考事例：常陸太田市 空き家リフォーム工事助成金

提言 14 空き家の利活用に関するセミナーの開催

【提言内容】

- ・空き家の所有者（法人・個人）や取得しようとする人に対して、利活用に関するセミナーの開催。
- ・担当職員や有識者の講演
- ・空き家ツアーの開催（物件見学、先行事例見学）
- ・マッチング会の開催

【その他】

- ・費用：案内チラシ作成 等
- ・参考事例：大阪市住吉区 空き家活用セミナー

【背景・目的（提言 12～14 共通）】

我が市では、少子高齢化の進展等により、空き家が年々増加しており、今後も更なる増加が見込まれ、空き家問題への対応は喫緊の課題となっている。空き家は、地域の安全性の低下、公衆衛生の悪化、景観の阻害等の問題を招き、ひいては地域の生活環境に深刻な影響を及ぼし得る。また、空き家の管理不全は物件の市場性の低下をもたらし、不動産としての有効活用の機会損失につながる懸念もある。

空き家の適正な管理や活用を促進するためには、所有者に対して積極的に働きかけ、空き家問題に係る所有者の意識を高めるとともに、相続等により空き家を取得した所有者が、空き家を資産として活用できるよう、空き家の利活用等に係るサポート体制の充実を図ることが求められている。

「徳川光圀公・斉昭公を一層活用した観光施策」

コンセプト 楽しんで学ぶ、楽しんで知る！水戸をお家にテイクアウト！

提言 15 梅まつりにおいて、新たに以下の企画を取り入れる

【提言内容】

・漫遊謎解き街歩き

企画制作会社とのタイアップで「水戸学の道マップ」と水戸に関するクイズシートを駆使しながら、水戸の歴史を学んでいく。

学校のカリキュラムとしても組み込むことにより、大人も子供たちも楽しみながら水戸の歴史を学ぶことができるなどメリットは大きい。学校教育の活用方法としては、楽しんで学んでもらうことが前提なのでクラスのレクリエーションとして組み込むのが良いだろう。

クイズ用に歴史的景観を予め映像を事前に撮ることでリモートでも謎解きは可能。

・梅まつり限定メニュー

既存の黄門料理 (https://mito.inetcci.or.jp/koumon_ryouri/) の提供は勿論、中川調理専門学校との連携で新たに水戸徳川家と彰考館の学者をイメージした料理を考案し、市内の飲食店にて提供。実現するには水戸徳川家や商工会議所の協力が必要である。いわゆるオタク界限でいうコラボカフェ。テイクアウト、お取り寄せも可能にする

・夜梅祭百鬼夜行

市民がお化けや妖怪の姿をして偕楽園、弘道館周辺を練り歩く。

リモートで行う場合、参加者を募集し、10～20秒程度の動画を参加者に送ってもらい、集まったら夜の歴史的景観を背景に送られてきた動画を流しながら映像を流す。

・異文化交流

アジア圏にも水戸の歴史と伝統文化を伝えるきっかけ作り。

水戸黄門を題材に台湾の伝統芸能・布袋戯と水戸の伝統文化がコラボ。劇のセットには水府提灯といった水戸の伝統文化を使う。

梅まつりでは劇で実際に使った人形やセットの展示を歴史館などで行う。

劇は、いばキラ TV や Netflix などネット動画で配信する。

・よさこいチームの派遣

水戸藩 YOSAKOI 連はもちろん、同じく梅の名所である太宰府まほろば衆を始め、長州よさこい連峯劉眞などを招待。

敢えて九州のチームを招待することで九州のほうにも水戸を知ってもらうきっかけを作ることができる。

演舞は梅まつり限定期間中に YouTube 配信。

【背景・目的】

観光事業において水戸徳川家に関する取り組みが少なく、関心を持てるきっかけが少ない。また、若者は、水戸徳川家に対してやや地味な印象を持っていると考える。

水戸徳川家は実はたくさんの魅力を持っており、案外身近な存在であるということイベントを通して伝えていけると良い。

さらに、梅まつりは水戸市内で大きなお祭りであり、一大イベントである。若者主体に発信していくことで県内県外の方々に大きな印象を残し、水戸の歴史を知るきっかけ、入り口になれることを望む。

提言 16 夏まつりにおいて、新たに以下の企画を実施する

【提言内容】

・怪談会

保和苑を会場に主に YouTube 界で活躍する怪談朗読者・怪談師、市内で活躍する歴史学者などを招き、主に水戸の土地、歴史に関する怖い話を語り合い考察議論する。

また市民から寄せられた怖い話を朗読する。

怖い話にも様々な種類があり、ここでは水戸藩の歩みから市内各地域、家々に伝統的に語り継がれる風習・信仰など歴史的背景に着目する。市民からの情報から新たな発見があるかもしれない。

YouTube で生中継配信。

・空き家を活用した限定お化け屋敷

地元の専門学生や茨大生の連携でお化け屋敷クリエイター五味弘文氏、オバケン、怖がらせ隊などとタイアップし、水戸にちなんだお化け屋敷を作る。

コロナ禍での場合、オバケンのリアル配信謎解きホラーを参考にして頂きたい。

・限定キャンディアイス

みとちゃん、ねば〜るくん、光圀公、斉昭公を模したキャンディアスを夏期期間中に限定販売する。販売箇所は主に水戸駅、偕楽園、千波湖好文茶屋など。

【背景・目的】

夏休みは学生が活発になれる時期であり、学生や若者を主体に発信する機会を作ることによって水戸の歴史について関心を持つきっかけづくりとすることが提案の目的である。“怖いもの見たさ”の心理を活かし、怖いけれど知りたい聞きたい、蓋を開けると歴史の裏に何が隠されているのか、現地に来て探ってみようと思わせることができると考える。

提言 17 光圀時代と斉昭慶喜時代を舞台にした 3D ゲームの開発

【提言内容】

市内にある専門学校と連携し、光圀時代と斉昭慶喜時代を舞台に 3D ゲーム開発をする。ゲーム開発ソフトはフリーのものから安価なものまであるので低予算からでも開発可能。ジャンルは主にホラー。

ホラーであれば作風の自由度が高く、また奇抜な作風によっては実況者の間で話題になることも見込める為。

【参考情報】

※VTuber 市松寿々 謡氏開発の「GO HOME」参照

昨今家にいる人々が多いので、開発したゲームを steam 販売することで家でも水戸気分を楽しめることが見込める。

多くの steam ゲームは、試験的に β 版を配信し、その上で開発を進めているよう

である。なお、対応機種は、大半が PC (Windows 版) である。

※提言 15～17 の主要なターゲットは、学生・若者である。学生や若者は、形式や慣例等にとらわれない新たな視点の企画の方が共感を得やすく、Twitter やインスタを始めとした SNS で拡散されやすい傾向にある。その中で水戸の伝統文化と歴史を伝えつつ、観光事業を盛り上げる中でどれだけ新しく面白く斬新な企画を作っているのかが鍵であると考ええる。

動画配信

提言 18 YouTube 等の活用

【提言内容】

YouTube の水戸市公式チャンネルを利用してこれから訪れるかもしれない潜在的な観光客に対しての PR 動画を増やす。

例えば、今後予定されている「チームラボ偕楽園光の祭」など茨城県・水戸市を代表する観光地とチームラボとのコラボレーションを企画し、実際に足を運び体験した動画の配信等を行う。

その際は駅から開催場所までのアクセスや、実施されているコロナ対策等訪れるであろう観光客が必要としている現地情報を取り入れる。(GOTO トラベルキャンペーンを利用して水戸市内の対象宿泊施設に宿泊予定の方に、「みと〇クーポン」付プラン宿泊だと 8000 円分のお得なクーポンが 1/31 まで貰えるなど水戸市内の施設の利用促進にも繋がる情報も含む)

また、水戸市在住の方や観光などで水戸を何度も訪れる人など水戸市が大好きな方、すでに YouTuber として活動している方の中で水戸市公式の YouTuber を公募し、動画制作に協力していただく。

【背景・目的】

圧倒的に水戸市公式チャンネルの動画再生回数が少な過ぎること。市政に関する動画が割合として多く、観光客向けの PR 動画と言えるものがあまりないことから水戸市を訪れるであろう潜在的な観光客に魅力発信ができていないと感じる。

YouTube などを十分に活用することで広く情報を知っていただき、その動画をきっかけに水戸市を訪れて頂けるようになる。(名産品購入等経済的な効果ものぞめる)

Ⅲ 子育てについて

(以下の提言は、現在のコロナ禍の中では財政面で実現が難しいかもしれないが、子供の生活環境の充実はコロナ関係なく、本質的に必要であるものと考え、提言させていただきます)

提言 19 水戸市子育て支援・多世代交流センター「はみんぐぱーく・みと」の施設リニューアルによる子育て支援の充実

【提言内容】

- ・遊具やおもちゃを子育て世代に人気なものへとリニューアルする。
- ・館内に親子で昼ご飯も食べられるカフェを設け、集客力をあげ収益を生み出す。⇒一例として、ネスカフェの「睡眠カフェ」のような施設を設置できると、日頃寝不足に悩まされている子育て中の親のケアも同時に行うことができる。
- ・指定管理者選出の際の審査項目の配点配分を見直す。(経費縮減ではなく、施設内容充実に重きを置く)
- ・民間事業者のコンサルティングを受けるなどデータ分析を行い、魅力ある施設づくりを行う。
- ・利用料(1回100~200円)を徴収し、施設内遊具の質を向上させる。
- ・施設リニューアル費用はガバメントクラウドファンディングを活用する。
- ・現状の多年齢向け施設ではなく、子育て世代向け施設へ特化する。

【背景・目的】

本提言は3つの視点から施設リニューアルの必要性を提言する。

〈魅力度が不足している「わんぱーく・みと」「はみんぐぱーく・みと」(以下、「わんぱーく」「はみんぐぱーく」)〉

現状、水戸市において子供が全天候型で遊べる大規模公共施設は、「わんぱーく」「はみんぐぱーく」のみである。

しかしながら両施設は以下の通り、子育て世代から魅力が低く感じられており、本来の施設の良さを発揮できてないと感じる。

- ・遊具が各家庭にあるものが多く、クオリティが低い
- ・広いスペースがあるが、生かしきれておらず、親世代に人気の知育要素が少ないと感じる。
- ・各イベント(読み聞かせやリトミックなど)も市民センターの子育て支援事業と重なる部分が多く、本施設に訪れる必要性を感じない。
- ・特に「わんぱーく」は駐車可能台数が少なく、利便性が悪い。

一方で近隣の日立市にオープンした「Hi タッチらんど・ハレニコ」は、別紙のとおり充実した遊具および魅力的なイベントを開催しており、日立市にあるにもかかわらず水戸市から通う親子も多い。

〈「わんぱーく」、「はみんぐぱーく」の指定管理者について〉

今期の「わんぱーく」、「はみんぐぱーく」の指定管理者選出の際、主に管理にかかわる経費の縮減という分野で他の候補者を大きく離し、（公社）シルバー人材センターが選出されている。

もちろん施設として存続していく上で、経費の縮減は大事な点ではあるが、経費ばかり重視されると施設内容の充実を図れない。そこで利用者から利用料を徴収することでその両立をめざす。

また管理者は、施設管理のみならず、施設の来場者数分析や行動分析などデータ分析を行い子育て世代のニーズにあった施設運営を行うことが望ましいと考える。

〈多年齢向け施設ではなく、子育て世代向け施設へ特化〉

現状、高齢者単独での来館者はほぼなく、多くが子供とその親である。

市民センター等での子育て支援事業において、多世代交流は行われており、本施設でも行う必要はないと考える。子育て世代向け施設に特化することで、実施内容も精査されたと考える。

子育て支援のための施設運営を行うならば、ただ施設があればいいというスタンスではなく、子育て世代を引き付ける魅力度を高め、必要とされる施設づくりを行う必要があると考える。また水戸市民のみならず、近隣市町村からも足を運びたくなるような施設づくりを行うことで、水戸市の観光資源の一つとしてもアピールすることができる。

本来ならば、両施設のリニューアルを提言したいが、まずは駐車可能台数が多い「はみんぐぱーく」のリニューアルをお願いしたい。

【その他】

- ・費用：施設改修費用、外部コンサル委託費用 等
- ・参考事例：自治体によるクラウドファンディング 埼玉県深谷市など
：日立市屋内型子どもの遊び場「Hi タッチらんど・ハレニコ！」

提言 20 「わんぱく・みと」への交通手段の利便性向上

【提言内容】

「わんぱく・みと」利用者に対する市営五軒町地下駐車場の無料開放（「わんぱく・みと」に一番近い公営駐車場である五軒町地下駐車場を利用する際、いばらキッズカードの提示または「わんぱく・みと」で発行される駐車無料券で〇時間無料といった優遇措置をとる）

【背景・目的】

「わんぱく・みと」については、常々施設規模に対し、駐車場の駐車可能台数が少ないといわれており、駐車場入場待ちの車列ができたり近隣のコインパーキングに停めなければいけなかったりと、不便な面が多々ある。

当施設の一番の利用者層である未就学児をもつ親たちにとって、また水戸市の交通事情に倣えば、自家用車で気兼ねなく行ける環境は魅力的であり、かつ、水戸市も居住区域が広いため、市内全域の子供たちを対象としているならば、車での来所がしやすい環境に整えるべきである。

しかし、既存の施設駐車場を拡充するとすると、土地の確保や駐車スペースが狭くなるなど制約があり難しい。

そこで、周辺の市営駐車場を有効活用することで、本問題を解決できると考える。

また、周辺の市営駐車場を活用することで、近隣商店街での買い物などの波及効果も見込めると考える。

【その他】

費用：「わんぱく・みと」での駐車無料券発行費

提言 21 水戸市主導による放課後や土日における小学生の居場所づくりの推進

【提言内容】

- ・各小学校区にある市民センターの一室を時間限定で小学生向けに常時開放とする。（以下開放室とする）
- ・開放室には、本やカードゲーム、ボードゲームなどを置き、子供たち同士の交流を図る。
- ・現在行われている放課後子供教室の実施回数をふやす。
- ・放課後や土日に小学校の校庭開放を行う。

【背景・目的】

現状、水戸市においては未就学児向けの全天候型施設は42か所と充実しているが、就学後も親の就労関係なく利用できる施設は3か所と激減している。（別紙参照）

就労している親の子供向けに開放学級の設置などは進んでいるが、開放学級を利用できない育児休業中や非就労の親の子供も4割存在することから、親の就労非就労関係なく、未就学児から小学生までの切れ目のない支援を行政が行っていくことが大切と考える。

小学生の放課後の過ごし方の一つとして、放課後子供教室が実施されているが、別紙の通り保護者のニーズがあるにもかかわらず、実施回数が多くて2週間に1回と少なく、日常的に利用できる環境にない。また放課後に小学生が利用できる公共の全天候型施設は数も少なく市内に住む多くの小学生が放課後に徒歩で来館できる場所がない。

そこで、小学生が徒歩で通いやすい各小学校区の市民センターの一角を活用し、地域密着型の交流スペースを設けることを提案する。また開放室の補佐的な役割として小学校の校庭開放も併せて行うことで、屋内外で子供がのびのびと過ごすことができると考える。

子どもたちに遊びの楽しさを伝え、男女・学年の枠を超えて遊ぶことで自主性、創造性、協調性などを養い豊かに成長できる場を設けることは、行政として行うべき施策であり、また水戸市第2期子ども・子育て支援事業計画においても放課後における児童の安全な居場所づくりを掲げており、放課後の居場所づくりは水戸市の方向性とも一致するので、前向きに検討をお願いしたい。

【その他】

・費用：

開放室の初期整備費用（防犯カメラ1か所7,000～15,000円、備品など）

校庭開放の見守り人員費用

・参考事例：

福島県郡山市における市民センターでの小学生の居場所づくり

三鷹市地域こどもクラブ事業

・参照文献：水戸市第2期子ども・子育て支援事業計画 - みと・すくすくプラン

<補足資料1>

日立市 Hi タッチらんど・ハレニコ について

概要：

日立駅徒歩4分のイトーヨーカドー内にある日立市の屋内型子ども遊び場。

90分の入れ替え制となっており、1回あたり子供100円、大人200円で入場できる。指定管理者は特定非営利活動法人 子ども大学常陸。

施設全体をボーネルンドが監修していることもあり、ゾーンごと(大きくわけて4つ)に年齢に応じた発達を刺激するような仕掛けがなされている。一つ一つのおもちゃのクオリティが高く、床材もそれぞれ異なる。

<4ゾーンについて>

①ベビーゾーン(主に乳幼児向け)：他のスペースとは低い壁によって明確に分けられており、安全の確保がしやすい。安心して赤ちゃんをコロンとさせておけ、つたい歩きの子どもの壁に付いている知育おもちゃで遊べる。

②ロールプレイゾーン(主に幼児～小児向け)：おままごとセットやのりもののおもちゃセットがある。幼稚園の園庭にあるような汽車を模した遊具、小さめの滑り台、ボールプール等がある。

③アクティブゾーン(主に小児向け)：全力で走ることができるランニングサーキット(坂道&滑り台つき)、イベント時にのみ見かけるような大型エア遊具(商品名：エアキャッスル)、回転して遊べるエア遊具(商品名：サイバーホイール)、ソフトブロック等がある。

④芝ゾーン(主に小児向け)：三輪車を使用できるサーキット、ボール遊び(サッカー等)ができるボールコート等があり、小学校中高学年でも遊ぶことができる。

ロールプレイゾーン	サーキットゾーン	ボールプールゾーン アクティブゾーン
		
<p>コックさんや、お店屋さんなど、さまざまなごっこあそびが揃っています。</p>	<p>お友だちと競争したり、協力したりしながらいろいろな乗り物を楽しめます。</p>	<p>ボールでいっぱいプールや、はしる、とぶ、のぼる、すべる、まわるなどの遊びを全身で体験できます。</p>

・完全室内でありながら、相当な運動量を確保できる施設となっており、小さな未就学児だけでなくきょうだいも一緒に楽しめると思われる。

・水戸市にある英宏小・中学校教員を講師としたマグフォーマーのイベントや化学教室等も不定期開催されている。

<補足資料 2 >

・未就学児とその親が無料で利用できる公共の全天候型施設

→わんぱく・みと、はみんぐぱく・みと（2 か所）、児童館ふれあいの館（1ヶ所）、子育てぽかぽか広場（2 か所）、子育て支援センター（13 か所）、市民センター子育て支援事業（24 か所）など少なくとも計42か所ある。

親の就労非就労関係なく小学生が無料で利用できる公共の全天候型施設

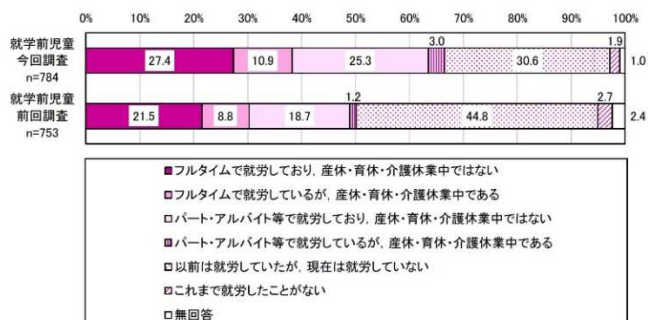
→わんぱく・みと、はみんぐぱく・みと（2 か所）、児童館ふれあいの館（1ヶ所）のみ

※同人口規模のつくば市では、小学生も利用できる児童館は18か所設置されている。

・水戸市第2期子ども・子育て視線事業計画より抜粋（2018年12月25日～2019年1月21日調査）

(3) 母親の就労状況

母親の就労状況については、フルタイム又はパート・アルバイト等で就労している割合は66.6%と、前回調査の結果と比べて16.4ポイント増加しています。



3. 小学生の保護者調査から

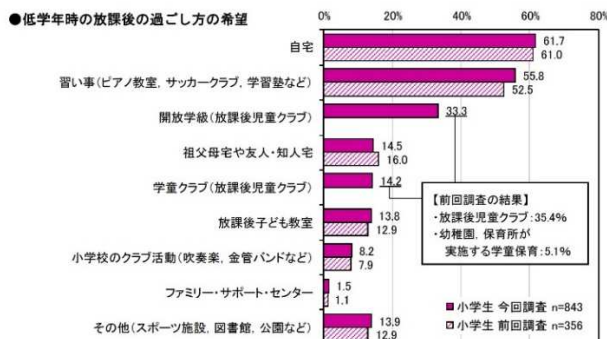
(1) 放課後の過ごし方の希望

低学年時の放課後の過ごし方の希望については、「自宅」が61.7%で最も高く、次いで「習い事」が55.8%、「開放学級」が33.3%となっています。

前回調査の結果と比べてみると、大きな差はみられません。

高学年時の放課後の過ごし方の希望については、「自宅」が65.6%で最も高く、次いで「習い事」が62.6%、「開放学級」が24.6%となっています。

前回調査の結果と比べて、「小学校のクラブ活動」が6.2ポイント減少しています。



市政モニター活動内容

令和2年5月11日（月） 委嘱及び第1回市政モニター会議

【会議内容】

- ・水戸市の状況等についての説明
 - 「水戸市の概要について」 政策企画課
 - 「市政モニターについて」 市民相談室

令和2年6月24日（水） 第2回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換 提言分野の選定について
- ・水戸市の自治会・町内会の状況等について説明
 - 「水戸市の町内会について」 市民生活課

令和2年8月27日（木） 第3回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 観光について
 - 子育て支援・教育について
 - 町内会の加入率を上げるための施策について

令和2年10月28日（水） 第4回市政モニター会議

【会議内容】

- ・意見交換
 - 各案に対する意見等について
 - 提言項目の決定について
 - 役割分担について

令和2年12月15日（火） 第5回市政モニター会議

【会議内容】

- ・提言書（案）について

令和3年3月2日（火） 第6回市政モニター会議